

令和3年度「税に関する高校生の作文」の入賞について

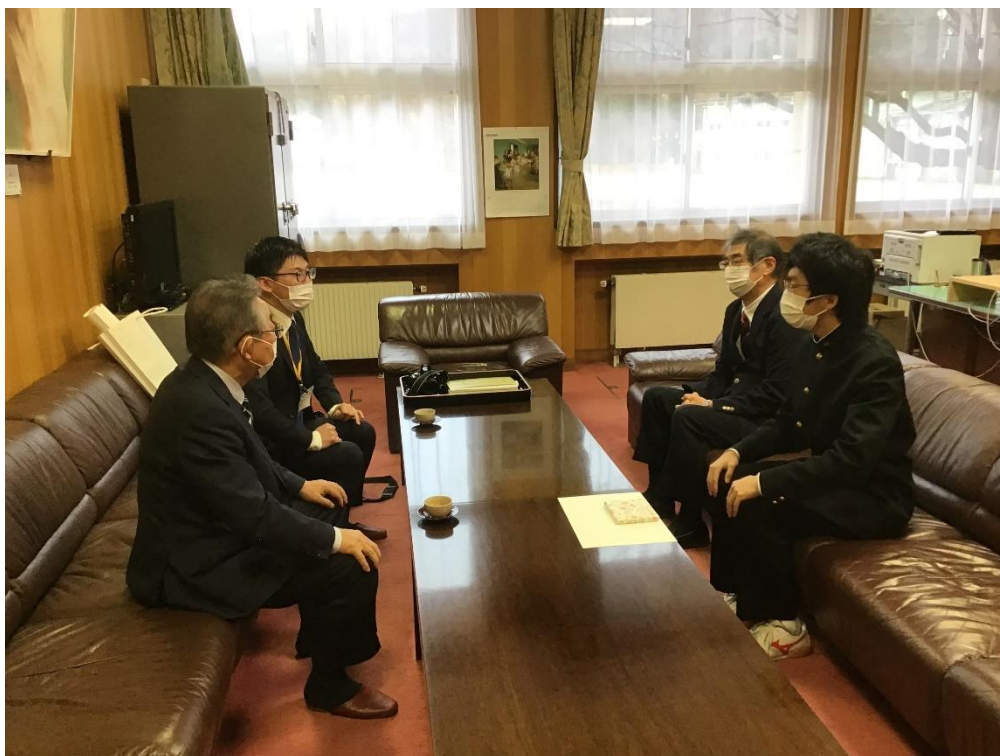
1年生の現代社会で夏季休業課題として取り組み応募した国税庁主催の「税に関する高校生の作文」において、本校から1名の入賞がありました。

◎釜石税務署管内税務関係団体協議会会長賞 1年1組 佐々木 緑登君

11月25日（木）13：00から本校校長室で表彰式を行い、賞状と賞品が贈られました。



↑佐々木 緑登君（中央）



釜石税務署管内税務関係団体協議会会長賞

消費税増税のメリット

について考える

岩手県立遠野高等学校

一年 佐々木 緑登

現在の日本において、私たちは買い物をする際に「消費税」を払う決まりになっている。また、最近では二〇一九年十月に、消費税が八%から一〇%に上がったことは、大きな話題になるとともに、私たちにも影響を及ぼした。

しかしながら、ネットの掲示板などを見ると、増税に対してメリットよりデメリットの方が多くからやめてほしいという人もいれば、社会経済を回すために仕方ないという人もいる。自分はそれを聞いて、増税は良いことか悪いことかがよく分からなかった。そこで、私が高校生になったこのタイミングで、今一度増税のメリットとデメリットを整理し、その上で自分の意見を述べていきたいと思う。

増税のメリットとして挙げられるのは、国の税収が増えるということだろう。その増えた収入を使って、社会保険や社会福祉にかけるお金を増やす、という形で私たち

に還元される。加えて、一〇%のうち二・二%は県や市町村に還元されることから、人口減少や高齢化などの理由で、税収が厳しい地域でも税収を得やすいというメリットも存在する。

対して、増税のデメリットは、低所得者への負担がより重くなるということが挙げられる。シンプルに、買物の時に払う金額が増えるわけだから、負担が増大することと増税は切っても切れない関係だと言える。それに加えて、景気が悪化するというものもある。これは、負担が増えて消費者が買い控えをするために起こる。日本のGDPの成長率の半分は家計による消費が占めるというから、買い控えは日本の景気に大きな影響を与えるといってしまうだろう。

さて、以上の内容を参考に、私も自分の増税に対する意見を述べていきたいと思う。

私は増税に対して、「行うこと自体は悪いことではないが、その利点を詳しく国民に説明すべき」と考えた。その根拠として、まず私は、増税自体はメリットの方が、大きいと判断した。消費税を払うことで、社会的な支援が受けられるため、一時的な

金銭の支払いとそれによって受ける支援とでは、後者の方がより大きいものと感じたからである。しかしながら、その社会福祉、社会保険というものは、なかなか受けている実感湧かないものである。だから、結局のところ分かりづらいメリットと分かりやすいデメリットとは世間の目につくのは当然後者である。これが世の中で増税が批判される心理であり、私たちがどこかで増税に後ろめたさを感じるのもそのせいではないだろうか、と私は考えるのだ。それ故、分かりやすく具体的なメリットの提示が求められる。とは言っても、検索サイトで調べればヒットするのだが、それをわざわざ調べようとすると人も少ないだろう。今後の課題としては、いかに人々に税への関心を向け、増税のメリット・デメリットを理解してもらおうか、という点なのかもしれない。

そして、これを機会に、私はこれからも税について考えていきたい。



【税に関する高校生の作文とは】

国税庁では、毎年、全国の高等学校の御協力を得て「税に関する高校生の作文」の募集を行っています。これは、次代を担う高校生の皆さんが、学校教育の中で学習したことや自分自身の経験・体験などを通して、税について考えたことを作文の形で発表していただき、これを機会に税に対する関心を一層深めていただきたいという趣旨で、昭和37年度から毎年実施しているものです。
令和3年度は、仙台国税局管内で14,750編の応募がありました。

↑ 今回書いた作文がポスターになり、構内に掲示されています。